

# 令和6年度 事業報告

若 杉 作 業 所

## 1. 事業概要

年間を通して検温・換気・空間の確保等による感染症対策を継続実施した。できる限り円滑な施設運営を心がけ年間行事は、自粛前の状態に回復させることができた。また、南海トラフ地震の発生確率の高まりを受け、災害時事業継続計画に基づき職員研修を行い、併せて利用者とともに防災訓練を繰り返し行った。

日々、職員間で課題を共有しつつ利用者のニーズや障害特性に応じた個別支援計画をリファインし、それに基づく余暇活動、生産活動等の取り組みを通じ生活リズムの安定を図り、心身の健康を維持しながら、一人ひとりの人生における生きがいづくりを目指し支援を行った。

## 2. 事業所運営

### 1) 施設整備等

1階部分のLED化と酷暑対策として2階更衣室のエアコンの更新を行った。

### 2) 職員構成

令和7年3月31日現在(名)

管理者	サービス管理責任者	支援員	事務員	嘱託医	看護師	計
1	1	6(2)	1	(1)	(1)	9(4)

※( )…非常勤職員:外数 ※管理者・事務員は、相談支援事業所わかすぎと兼務

### 3) 会議

・法人・事業所内会議

会議名	内 容	開催	構成
法人運営会議	理事長、常務理事、管理者等が、運営課題等及び各事業所の情報を共有化するための会議を行った。	原則 月1回	理事長、 常務理事等
職員会議	事業所内の支援の現状や課題等の検討、研修報告、行事及び運営の方向性等について協議した。	毎月1回	全職員
ケース検討 会議	利用者の支援上の諸問題に関する検討を行った。 利用者の個別支援計画の実施状況の確認と、今後の計画の検討を行った。	随時 8月・3月	全職員
支援会議	より充実した利用者のための支援のあり方を検討し、プログラムの見直しなどを検討した。	1回	支援員
虐待防止 委員会	職員の人権意識の向上など職場での虐待防止に努め、身体拘束等の適正化のために開催した。	3回	委員3名
ハラスメント 防止委員会	職場でのハラスメントの防止とその適切な対応に努めるために開催した。	1回	委員3名
感染防止委員会	新型コロナウイルス感染症の蔓延期における感染症対策指針に基づく研修をおこなった。	2回	委員5名

・外部団体主催会議

月	参加者	会議名	主催	会場
5	サビ管	昭河区自立支援協議会総会	昭河区自立支援協議会	昭河区役所第4会議室

4) 職員研修

人権等の知識修得や技術向上のため、各種研修に積極的に参加した。

月	参加者	研修名	主催	形式
6	所長・サビ管	権利擁護研修	相談支援プロジェクト	日中活動センター
7	生活支援員	マナー研修	市社協	オンライン
	生活支援員	精神障害特性研修	市社協	医師会館
	生活支援員	権利擁護研修	市社協	オンライン
	生活支援員	ICT研修	市社協	オンライン
8	生活支援員	専門職育成フォーラム	日福大	オンライン
	生活支援員	人材育成研修	市社協	国際会議場
	生活支援員	グループリーダー研修	全国社会福祉経営協議会	オンライン
	生活支援員	対人援助研修	市社協	医師会館
	生活支援員	発達障害基礎研修	市社協	医師会館
	生活支援員	普通救命研修	市社協	モビリティ吹上
	生活支援員	発達障害実践研修	市社協	医師会館
9	生活支援員	地域共生社会研修	市社協	市社協
	生活支援員	障害福祉制度研修	市社協	オンライン
	生活支援員	ファシリテーション研修	市社協	市社協
	生活支援員	強度行動障害研修	市社協	オンライン
	サビ管	アングーマネジメント研修	市社協	国際会議場
10	生活支援員	普通救命研修	市社協	モビリティ吹上
	生活支援員	タイムマネジメント研修	市社協	市社協
11	生活支援員	人権倫理研修	市社協	オンライン
	生活支援員	ハラスメント研修	市社協	医師会館
12	生活支援員	強度行動障害実践研修	研修事務局	市社協
1	生活支援員	メンタルヘルス研修	市社協	市社協
	生活支援員	スーパービジョン研修	市社協	市社協
2	生活支援員	防災研修	東区基幹相談センター	東区役所
	生活支援員	強度行動障害基礎研修	研修事務局	市社協
	事務員	権利擁護研修	市社協	オンライン

5) 年間行事

感染症への対策を講じながら、行事の開催を通常の状態に向けて実施した。

実施日	行事名	内容
4月1日(月)	新年度始まりの会	年度の初めに、職員の挨拶と年間予定の説明などを行った。(参加利用者34名)

7月5日(金)	サマーイベント	季節感を感じられる流しそうめんやうちわ作りを行いながら思い思いのペースで午後のひと時を過ごしていただいた。
10月5日(土) 10月19日(土)	日帰りバス旅行	前半と後半の2グループに分け浜松フラワーパークと浜松市動物園に行き、園内を周遊しながら動植物にふれあい景色などを楽しんでいただいた。
11月9日(土)	若杉まつり	保護者やヘルパーも加わり日常生活の動画上映やビンゴゲームなどのステージイベントをはじめ、お菓子作りやカレンダー工房などの出展ブースなどを体験することができ、大いに盛り上がった。保護者と職員が、おしゃべりをしながら、交流を深めることができた。 (参加利用者23名 全体参加者延べ約58名)
12月24日(金)	クリスマス会	プライドチキン弁当やショートケーキを食べ、クリスマスプレゼントを配布した。また、2024年の振り返り動画を鑑賞し楽しんだ。(参加利用者30名)
1月10日(金)	新年を祝う会	豪華な幕の内弁当とどら焼きなどの和菓子を食べて新年のお祝いをした。お正月にちなみ木製の絵馬に思い思いに願い事を書いた。所内に飾り、来所者に披露した。 (参加利用者32名)

#### 6) 防火・防災管理

利用者の安全を最優先課題とし、避難体制の強化を図った。抜き打ちで行事等の途中の時間帯に訓練を行うなど、より実践的で臨機応変に対応できるように工夫を凝らした。

月	訓練項目等	実施内容	備考
4	防災対策会議 消防用設備定期点検①	年間計画と各職員の防災上の役割を確認した。 消防用設備等の総合点検を実施した。	職員 ㈱新日本コーポレーション
5	防災避難訓練 (地震想定)	24日(金)に実施。活動時間中の地震発生を想定し、安全確保と確認を迅速に行った。(参加者40名)	利用者、職員
7	防災避難訓練 (火災想定)	8日(木)に抜き打ちで実施。活動時間中の火災発生を想定し、安全確保と確認を迅速に行った。(参加者45名)	利用者、職員
8	自主点検	自主検査表に基づき、建物、消防設備を点検した。	担当職員、管理者
9	情報伝達訓練 防災会議 防災総合避難訓練	市健康福祉局主催で5日(木)に実施した。 災害時の対応、役割分担や防災カルテ等を確認した。 30日(月)活動開始間もない時間帯の地震とそれに伴う火災を想定した避難訓練を実施。(参加者42名)	管理者、事務 全職員 利用者、職員
10	消防用設備定期点検②	消防用設備等の機能点検を実施した。	㈱新日本コーポレーション

12	防災避難訓練 (地震想定)	13日(金)に実施。活動時間中の地震発生を想定し、安全確保と避難を迅速に行った。活動で所外に出ている際の連絡に関して課題が出た。(参加者 30名)	利用者、職員
2	防災避難訓練 (火災想定)	7日(金)に実施。昼休み中に火災発生を想定し抜き打ちで行い、安全確保と確認を迅速に行った。(参加者 40名)	利用者、職員及び 実習生
2	自主点検	自主点検表に基づき、建物・消防設備を点検した。	管理者、担当職員
3	備蓄食品等の確認	昨年入れ替えた備蓄の確認をした。	管理者、担当職員

### 7)健康管理

感染症対策のため検温・体調チェックを毎朝行った。また、状況に応じ顔色や食欲のチェック等を行い見守りを行った。看護師による毎月の体重測定と体調面の確認や、年2回の尿検査及び嘱託医(水谷クリニック)による年2回(6月・3月)の内科検診を行った。また、昼食時などに服薬や歯磨きの支援を行った。

### 3. 支援概要

感染症対策として、来所・昼食時の手指消毒を朝・帰りの会や各作業室で随時行ったり、昼食については時間をずらし、食堂だけでなく活動室も利用する等の工夫を引き続き行った。

#### 1)日課

8:30~ 9:10	9:10~ 9:15	9:15~ 10:30	10:45~ 12:00	12:00~ 13:00	13:00~ 14:15	14:30~ 15:45	15:45~ 16:00	16:00~ 17:00
朝の利用者通所 の打合せ	朝の会 ラジオ体操	活動 A	活動 B	昼(休 食 憩)	活動 C	活動 D	清掃 帰りの会 利用者帰宅	帰りの打 合せ・記録等

#### 2)各種活動支援

利用者個々が選択し、週間プログラムとして実施することで、一人ひとりの興味や志向を確認し、持っている社会生活能力等を引き出すことをめざした。

##### ◎余暇活動

##### ○音楽活動

カラオケの他、踊り、音楽鑑賞の時間をつくった。好きな曲を選択し、歌以外でも楽器で参加したり、聴いて満足する人、からだを揺らす人など様々な形で楽しさを表現した。

##### ○踊り活動(音楽活動)

毎月第3木曜日に天白区植田南学区の女性会に依頼して踊りの講師として来ていただき、音楽に合わせて身体をスムーズに動かしながら、楽しんだ。

### ○創作活動

工作、絵画、塗り絵、切り絵、習字などの活動を通して、各個人の能力を引き出し、各自のペースを尊重しつつ、リラックスした雰囲気の中で取り組めるようにした。

### ○お菓子クッキング活動

材料の準備運搬から食器の片づけまで、各利用者の成長に合わせてながら、様々な作業に携わり、自分たちで作ってそれを食べて、達成感を味わうことができた。

### ○ドライブ活動

利用者の希望も取り入れながら、街中、郊外の季節や風景の移り変わりを楽しんだ。また、参加者同士での会話や、好きな音楽を車内でBGMとして楽しむ場面もみられた。

### ○軽スポーツ活動

施設から外に出て近隣の神社や公園での散策を楽しんだ。また、所内で風船バレーやボッチャ、紙コップタワーなど楽しんで体を動かす活動を行った。

### ○所外活動

C、Dの2時限を使い、社会的な環境適応のための経験を積むため、ショッピングセンターやレトロ電車館などの施設を訪問した。健康増進やリラックス効果も得られ、少し遠出をして様々な場所に出かけることを楽しんだ。

### ○工賃支給日・誕生日プレゼント

毎月の工賃支給日に、菓子・飲み物で日々の労をねぎらった。また、全員で集まって行う誕生会ではなく、原則誕生日にプレゼントをお渡しして個別にお祝いをした。

### ◎生産活動（作業）

社会的自立をめざす一環として、個別支援計画に沿って、個々の適性に合った作業工程を提供している。

### ○ごみ袋セット(粗品)作り作業

市指定ゴミ袋を折りたたみ、ラベルとともにラッピング袋に入れる作業を行った。自主製品として昭和・瑞穂区を中心とした区役所、関連団体、会社などから受注している。

### ○箸の袋詰め作業

受注・納品により、ロゴ入り箸袋に割り箸を入れて袋詰めする作業に取り組んだ。箸の表裏の確認や百膳を数える作業、ビニール袋にきれいに詰め込む作業に取り組んだ。

### ○箱折り作業

業者の材料の持ち込み、製品回収により、贈答用の箱を折る作業に取り組んだ。折り目に沿ってきれいに形づくる確実性が求められ、熱心に取り組む利用者の姿が見られた。

### ○釘袋入れ作業

受注納品により、釘類を指定通り袋に詰め、シールを貼りホチキス止めする工程や、釘にシールを貼りまとめる工程に取り組んだ。経験を積むことにより、できる作業を増やした。

### ○自動販売機を中心とした飲料販売

玄関に飲料自動販売機を設置し、缶類の補充やメンテナンスを作業として行い、その売上を工賃にした。

### ○アルミ缶回収作業

事業所前に回収カゴを設置し、近隣の方に入れていただいたアルミ缶を選別して袋詰めする

作業に取り組み、リサイクル業者に回収を依頼した。

### 3) 工賃

平均工賃・・・ 871円／月（5年度 985円／月 4年度 ¥1,170円／月）

今年度は、ごみ袋作業が減少したが、飲料販売は増加した。それぞれの作業能力にあわせた役割を実感できる利用者も少なくないことから、工賃の増加を図っていきたい。

## 4. その他の諸活動

### 1) 利用体験・教育実習・施設見学の受け入れ

社会福祉士資格の取得のための実習を中心に受け入れを行った。

#### ○利用体験実習

在宅または就学中の障害者を対象に、生活介護事業所での体験を通じて学校卒業後などの日中の過ごし方について考える機会を提供した。

南特別支援学校	1名	男性
---------	----	----

#### ○教育実習

大学・専門学校等で学ぶ学生に、施設としてその目的に沿った実習の場を提供した。

社会福祉士実習 (相談援助実習)	2名	日本福祉大学社会福祉学部通学課程 1名 日本福祉大学中央福祉専門学校通信課程 1名
教員免許特例法による介護等体験実習	0名	なし

#### ○夏期高校生ボランティア活動の受け入れ

桜花学園高等学校 0名

名古屋大谷高等学校4名

聖カピタオ女子高等学校4名

豊田大谷高等学校0名 合計8名

### 2) ボランティア講師の受け入れ

今年度も、天白区と名東区から踊り活動の講師の受け入れを行った。

### 3) 広報活動

広報紙として「若杉通信」を原則年4回発行しており、令和6年度は春夏秋冬の4回発行した。また、6月と2月に南・天白・西・守山特別支援学校の概ね全校生徒を対象にパンフレットを配付し、若杉作業所のアピールを行った。これから利用を考えている方、小中学校の実習生、見学者等のために、分かりやすくルビを振ったパンフレットを配付した。また、西特別支援学校の養護教諭と懇談を行い、ニーズの把握を行った。

4) 苦情解決

施設の福祉サービスに対する苦情の受付はなかった。

5) 社会貢献活動

○地域の下構大和町内会の総会や子ども会のラジオ体操の会場の提供を行った。地域開放事業となる若杉まつりは、感染症対策を図りながら実施した。

○名古屋市の福祉避難所として登録しており、非常食などの災害部品の備蓄を行い、地域防災活動に貢献している。

5. 利用者の状況

1) 入所者・退所者状況(定員 40 名)

各月末現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所者数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
退所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
利用者数	35	35	35	35	35	36	36	36	36	36	36	36
利用実績	27.2	29.1	29.4	28.5	27.7	29.8	30.7	29.6	25.3	29.0	29.8	29.2

\*年間平均出席人数 28.8 名 開所日数 241 日 利用率 80.7%

2) 年齢別利用者状況

令和 7 年 3 月 31 日現在

性別	年 齢 (歳)									計	平均年齢
	~20	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45	46~50	51~			
男性 (名)	0	1	6	5	4	0	3	7	26	41.8 歳	
女性 (名)	0	0	1	2	0	0	3	4	10	46.5 歳	
計 (名)	0	1	7	7	4	0	6	11	36	43.1 歳	

\*最年少 … 25 歳 最高齢 … 73 歳

## 3)利用期間別

令和7年3月31日現在

性別 \ 期間	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～7年未満	7～10年未満	10年以上	計
男性(名)	1	0	0	1	5	19	26
女性(名)	0	0	0	0	3	7	10
計(名)	1	0	0	1	8	26	36

\*最長利用期間 … 男性:37年3か月 女性:43年4か月

## 4)障害別

令和7年3月31日現在

性別 \ 障害	知的	身体	精神	てんかん	自閉症	ダウン症	その他
男性(名)	26	2	0	5	12	5	0
女性(名)	10	2	1	2	1	2	0
計(名)	36	4	1	7	13	7	0

## 5)障害支援区分別

令和7年3月31日現在

障害支援区分	1	2	3	4	5	6	計
男性(名)	0	0	3	10	8	5	26
女性(名)	0	0	1	5	2	2	10
計(名)	0	0	4	15	10	7	36